

指定校番号	28098	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	東広島市立中央中学校	校長	左田 和幸	生徒指導主事	岡 真吾
-----	------------	----	-------	--------	------

**取組事例名 『生徒の主体的な活動を通して生徒の自己指導能力を育成する』**

**取組のねらい『キーワード 学校行事を通じた主体的な取組』**

○ 昨年の体育大会では縦割り活動に取り組んだ。今年度は4月のスタートから学校行事における縦割り活動を計画し、1年を通して縦割り活動を行った。多くの活動の場で、上級生がリーダーとなり後輩を思いやり、後輩が先輩を尊敬しながら活動を進めていくことで、共感的な人間関係を育むとともに自己存在感を与え、自己指導能力の向上につなげた。

**取組の具体的内容『キーワード 主体的な縦割り活動』**

- 1年を通じた縦割り活動
  - ・4月 各組団に別れ、1年間の目標、スローガンの決定
  - ・5月 縦割りでの新入生歓迎遠足
    - ※ 雨天のため、遠足は中止になったが、体育館で団ごとにスローガンを発表したり生徒会主催のレクリエーション活動を行ったりした。スローガンの発表については、3年生のリーダーを中心に発表の仕方まで工夫し、それぞれの思いを表現した。生徒会レクリエーションでは、全生徒、全教職員と一緒に取り組んだことによって、学校全体の連帯感が高まった。
  - ・7月 体育大会に向けて、縦割りでのダンス練習
  - ・8、9月 縦割りでの体育大会の取組
  - ・10月 縦割りでの文化祭の合唱練習
    - ※ 各組団で3年生が1、2年生の指導をしていくという流れができた。3年生が後輩の前に立って実際に歌ったり、助言していくことで、1年生は歌うことへの抵抗感をなくし、先輩と共に中央中の歌う伝統を守ろうとする気持ちが生まれた。



各組団のスローガン発表



生徒会レクリエーション



結団式



先輩から後輩への校歌指導



ダンス指導



体育大会

### 取組の課題・創意工夫『キーワード 新たな取組』

- 昨年からスタートした縦割り活動を年間を通じて行う取組とした。
  - ・生徒会や3年生の団リーダーを中心に取り組み、教員はできるだけ指示を出さず、生徒が練習方法を考えることや教え合うことで行事への取組の意欲を向上させた。
  - ・体育大会や文化祭では団ごとに、その日の評価や振り返りを3年生の団リーダーがホワイトボードに記入し、生徒玄関で毎日伝達できるようにした。
- 課題は、リーダーの成長はいろいろな場面で感じるができるが、その他の生徒（フォロワー）の成長に向けて教員がどんなアドバイスをしていけば良いのか、どんな取組が必要なのかを考えていかなければならない。
- 生徒会が中心になって行った「新たな取組」として、5月に新入生歓迎遠足を計画した。どのように交流すれば、学年関係なく交流できるかなどを考え、全生徒と全教職員合同のレクリエーションを計画し、実施した。課題は、生徒も教員も一緒になって全体で活動できたのは、この1回だけだった。生徒の感想でも教員からの意見でも、こんな機会を増やすことができれば、生徒同士、生徒と教員の信頼関係も高まるのではないかと考えている。

### 取組の成果（効果）『キーワード 自己指導能力の向上』

- 4月から計画的に縦割り活動を取組に取り入れたことで、お互いの信頼関係も高まり、人間関係のトラブルが減少した。昨年、2件の暴力行為があったが、今年は0件で大きなトラブルがなくなった。毎年、部活での先輩後輩のトラブルがあるが、これも今年は0件である。お互いを大切にし、認め合える集団になってきたことで、問題行動の減少につながり、落ち着いた学校生活を送っている。
- 生徒意識アンケートにおける「学校行事・生徒会行事に満足している」という項目に対し、肯定的な回答が、5月時は79.5%であったが、12月には88.7%と向上した。行事後の生徒の感想においても、自分のためにも仲間のためにも良い行動をしようと考えている生徒も増え、自己指導能力の向上につながっている。
- 生徒自らが活動を企画したり、行事を運営していくことで、規範意識が高まり、自らルールや時間を守ろうとする生徒が増加した。生徒意識アンケートの「授業が始まる2分前には、自分の席に座り、次の授業の準備ができている」という項目に、93.8%の生徒が「できている」と肯定的に回答している。

### 今後の展開『キーワード PDCAサイクル』

- 生徒が主体的に参加していく取組を始めて2年が経った。定着し高まり続ける取組もあれば、改善していくことを考えなければならない取組もある。現状に満足せず、PDCAサイクルに基づいた取組み改善を組織的に行っていくことで、本物の文化になっていくのではないかと考えている。

### 他校へのアドバイス『キーワード 共通理解と行動の一元化』

- 生徒が行事に主体的に取り組んでいくためには、教職員の支援も重要になる。すべてが生徒任せになってしまうと間違った方向に行くことやトラブルになることもある。どのような支援が必要か、支援と指導の基準を明確にし、どこまで支援しどこから指導していくか、教職員で連携しておくことが大切である。